



3年生の「スローガン」決定!

毎年、センター試験出願の時期に、3年生の受験に向けてのスローガンを発表しています。今年の3年生(50期)のスローガンは、「対心一処(たいしんいちしょ)」に決まりました。下記はこの言葉の意味です。

出典『安岡正篤 一日一言』

「心に一処に対すれば、事として通ぜざるなし」

意味

鹿児島弁で言えば「生魂(いったましい)を入れよ。」

自己というものを本当に仕事に打ち込んでいく、そうすると、自分の対象である仕事は、自己と一つになることによって精神化される。すなわち対象に魂を入れる。

事物と自己が一つになることによって、対象はすなわち自己になる。自己が昇華する self-sublimation というもので、そうすると、どんどん物事が解決していくのである。

すなわち、皆さんが今の学習を、進学等の手段としてのみ取り組んでいくのか、自らの人格を高める場面と捉えるのか、はたまた、両者を止揚・統合していくかで各人の可能性と発展性は異なってくる。

このスローガンのもと、3年生一同、来たる大学入試センター試験への準備に専心しています。

センター試験 55万9156人出願

センター試験出願を、本校では一括して10月2日に行いました。先日、出願の登録内容の確認はがきがセンターから届き、3年生は個人宛のはがきを受け取って、内容の最終確認作業をしているところです。全国的には、出願者数が56万9156人と発表がありました。3年生は10月、11月は休日返上で模擬試験を受験し、勉強に専念して頑張っています。大学入試までの日々を有意義に過ごし、本番で力を発揮してほしいと願っています。

文理選択～1年生～

2年次からのコース分けは、卒業後の進路を決定する上でとても重要な選択です。文系コース、理系コースについての説明と、選択に当たって大切な点を紹介します。

<文系コース>

資料や情報を収集し、自分の言葉で表現する力が要求される。国内外の文献を読みこなす国語力・語学力だけでなく、専門分野の知識を深め、社会の動きに敏感になることが要求される。また、統計等を用いる経済学・心理学等は勿論のこと、他の学問も論理的に考えていくため、数学的な思考も重要になってくる。主に法学、経済学、文学、哲学、心理学、歴史学、語学、芸術、体育、教員養成(文系)等の系統の学部・学科に進学したい生徒を対象としたコース。国語・英語・地歴公民に重点が置かれる。

<理系コース>

問題に対して、仮説を立て検証する力が要求される。自然科学の事象を理解するための理学的な知識、実験データを正確に把握・分析するための数学力が求められる。また、論文やレポートを書くための表現力、文献を読みこなすための国語力・語学力も求められる。主に理学、工学、農学、水産、獣医、医学、歯学、薬学、医療系、食物栄養、教員養成(理系)等の学部・学科に進学したい生徒を対象としたコース。数学・理科・英語に重点が置かれる。

*但し家政学、福祉関係は両方のコースが考えられる。

「文理選択」に当たって大切なこと

「職業観の育成、上級学校についての情報収集」

「自己理解」

- ① 「何に興味や関心があるのか、何をやりたいのか」という点から将来の職業と大学の学部・学科について、客観的に考察していくこと。
- ② 周囲の意見に十分に耳を傾けながら「自分を知らう」という積極的な姿勢を持ち続けること。

*看護系大学への進学を希望する人は、理系を選択することが望ましい。現2年生からの教育課程の変更に伴い、看護系入試の場合、理科の履修は理系のほうが有利と思われる。

【3学年部から】

受験の第一関門と言われるセンター試験まで80日を切りました。志望校への道を拓くためにも、まずはこの一つのハードルを確実に超えたいと考えるのはすべての受験生の思いであり、1点でも多く得点させたいというのが、50期の皆さんに携わるすべての教員の思いでもあります。今後は、自分の学力と志望校を考慮し、センター試験と個別試験に向け、バランスを考えた学習を心掛けたいものです。

受験勉強も後半にさしかかるこの時期は時間との戦いでもあります。受験に向けていよいよスパートをかけたい今、「なかなかやる気が出ない」「志望校に合格できるのだろうか」といったネガティブ思考は極力排除して、高いモチベーションを維持しながら、限られた時間を最大限に有効活用して欲しいと思います。

例年、本校の生徒が学力の大きな伸びを実感するのは、これから冬休みまでの2か月間です。本校の各教科の先生方の指導にしっかり乗り、「考える」勉強を意識し、やるべき事を確実にこなしてさえいれば焦る必要はありません。しかし、もし必死の努力がなかなか結果に繋がらず、焦りや不安を感じているのであれば、次の3点についてもう一度確認して下さい。

- (1) センター試験までに到達すべき最終目標を設定し、そこから逆算したうえで学習計画を立てる
…どの教科をあと何点伸ばせば目標に到達するのかを考え、センター試験までに残された時間を逆算する。この時期に何をすべきなのかを考えながら、1週間ごと、1日ごとの学習のノルマを明確にすることで、無駄な時間をなくせるはずで、すきま時間も上手に活用できるはずで。
- (2) 自分自身の苦手教科・苦手分野を明確にしたうえで、学習の優先順位を明確にする
…過去の模擬試験等を再度見直し、自分が理解できていない箇所を確実に把握し、理解のすきまを埋めて密度の高い学習・効果的な学習を心掛ける。
- (3) 伸び悩みを解消するために、視点を変えて、生活のリズムと学習方法をひと工夫する
…入浴時間・入浴方法を変えてみるなど、1日の時間の使い方を見直し・変更してみたり、マーク式の問題だけに取り組むのではなく、センター型問題と記述型問題を交互に解きながら基礎力と同時に応用力の定着度を確認したりするなど、学習内容にメリハリをつけるのも1つの方法です。

厳しい言い方かも知れませんが、受験会場での不安な気持ちを打ち消して、自分自身を奮い立たせてくれるのは、他の誰でもなく自分自身です。

明確な目標に向かってポジティブに考えよう。自分が取り組むべき勉強に集中しよう。これからの前向きな学習が、きっと君たちに「自信」を与えてくれるはずで、勝負はこれからです。

今、受験勉強と並行してやっておきたいこと (ベネッセ・学びジョン 10月号より)

その① 「大学資料・願書請求」～ 担任に相談のうえ、受験する可能性のある大学の願書は年内に請求を！

国公立大2次試験用や私立大の願書は、原則として、個人の責任で入手。最近では、冊子の案内書や願書をやめて、WEB 出願を開始した大学もある。受験する可能性がある大学については、余裕を持って遅くとも年内には願書請求をしておく。(学校でまとめて請求できる大学もあります。不明な点は進路指導室で確認を！)

その② 「お金の相談」～ 受験料・入学金・授業料… お金について保護者と相談しておくこと

大学受験では、受験料はもちろん、交通費や宿泊費など、経済的な負担も小さくない。志望校について、保護者とも十分に話し合いをしておくこと。一部の私立大では、同一大学で複数学部・学科を受験する場合や、センター試験利用入試を受験する場合、受験料が割引になることもある。地方受験会場を設定する大学もある。情報収集を怠らないように！

その③ 当たり前だが、「規則正しい生活」を送ること

必死になって受験勉強に励むのはわかるが、健康管理には細心の注意を払う。無理をして睡眠時間を削ったり、時間がなくて朝食を抜いたりしないこと。生活のリズムを整えて、規則正しい生活を送ることが、集中力を高め、持てる力を最大限に発揮することに繋がる。

【2学年部から】

10月17日の南薩路遠行、秋晴れの中の30kmはいかがでしたか。体力の限界への挑戦は、やはりやりがいのあるものだったと思います。成績的にもさすがは中堅学年、上位の大部分を占めてくれました。かねて見ることのできない皆さんの表情もよかったです。

さて、10月22日(水)、講堂にて2学年合同LHRが実施されました。テーマはズバリ、進路、学習。かなり厳しいコメントも頂戴しましたが、皆さんの将来を思えばこそ。よい刺激となったのではないのでしょうか。そこで、今回はこのLHRの内容を要約、抜粋して記録しておきたいと思います。生徒の皆さんは再読、確認し、保護者の方もぜひ目を通していただきたいと思います。

学年主任・演崎から

- 遠行はよくがんばってくれた。
- これから国内体験学習もあり、盛り上がるだろうが、これは単なる遊びではない。学習である。
- スマホ、インターネットの1日使用平均時間が実に99分。この時間を学習に充てればどんなによいだろうか。猛省を。

進路指導部主任・西中間先生から

- 51期生の諸君、君たちの学力について、このままではいけない。
- 2年7月進研模試と現実の大学合格実績は相関関係にある。このままでは非常に不安である。
- 11月の模試から、5教科受験になる。
- 高3の模試からは浪人生も参加してくるため、なかなか成績は伸びない。
- 夏のオープンキャンパスで上位校への志望は高まったが、それに見合う成績はまだ出ていない。
- センター試験レベルの学習は高2で終わる。今から必死にやらなければ、何のために本校に来たのか分からない。諸君のレベルはまだまだである。
- 大学入試は高校入試とは倍率からして違う。全国50万人、国公立の定員は10.1万人。スタートが違いと間に合わない。まず課題をきちんとやること。携帯・スマホなどやっている時間はない。
- 理系の2次試験には基本的に英語が入ってくる。
- 「数学の授業が分かる」というが、本当の数学力を持っていると言える者は少ない。
- 時間厳守、挨拶、基本的な生活習慣をしっかりと守るところから始めたい。

進路指導係・上赤先生から

- 「伸びる人」とは、「素直な人」、「伸びない人」とは「他罰的な(他人や環境のせいにする)人」。
- 高2で受験勉強を始めた人の85%は第一志望に合格している。高3で始めた人は35%。
- 先輩方の失敗理由は、「苦手科目をそのままにしていたこと」。
- センター試験は100%教科書から出る。授業を素直に聞くこと。寝ている場合ではない。賢くない者は授業をおろそかにして魔術的な方法で一発逆転を狙うようになるものである。そんな方法は、ない。あくまでコツコツやるしかない。授業を大切に。

企業訪問について・山口先生から

- 3年生はセンター試験まで3ヶ月を切った。87日後、君たちは本当の受験生になる。
- これまでの宅習時間では、足りない。これではせっかくのポテンシャルが出せない。
- 大学入試は、基本50%、応用30%、難問20%である。まず基本を大切に。「圧倒的基礎力」で決まる。そのために今、「プラス30分の宅習」を呼びかけている。
- この機会に、「社会人とは」、「生きていくとは」というテーマについて考えてほしい。
- 将来は人間としてマナーを守り、社会に感謝される人になってほしい。そのための企業訪問である。
- OBの先輩方のご厚意である。君たちの来訪を楽しみにして下さっている。班長、メール係を決めておくように。その他会社概要、質問事項、交通手段も下調べしておこう。

今年度の進路関係行事について(予定)

- 11月 進路志望調査 学年PTA(12日・水)
- 1月 進路講演会
- 3月 先輩と語る会 スタディサポート

- 12月 国内体験学習 二者面談
- 2月 合同LHR

【1 学年部から】

薩摩中央高校訪問

昨年度から、鹿児島県内の「中央高校」が集まり「CBP(Central High schools Borderless Project)」が始まりました。この一環として、薩摩中央高校との交流を目的に、秋季休業中の9月29日(月)に1年生の希望者が農業体験をしました。更に午前中は、鹿児島大学の入来観測所である有名な面高先生と懇談する機会も得ました。

〈日程〉	
8:30	鹿児島中央高校出発
9:15	入来観測所到着
11:00	入来観測所出発・昼食
13:00	薩摩中央高校到着 農業実習、生徒会との交流
16:30	薩摩中央高校出発
17:30	鹿児島中央高校到着



電波望遠鏡



電波望遠鏡操作中

【参加者の感想】

- ・宇宙については全く知らなかったが、とても大きな望遠鏡や天の川の地図作りなどのことを知り、世界は広いし自分の知らないことばかりだと思った。
- ・望遠鏡が大きく、動いたときにはとても迫力がありました。また、話術の大切さを学び、質問をすることが大事だということを学びました。



面高先生との懇談

昼食をとった後、午後1時に薩摩中央高校を訪問し、畜産と果樹の農業体験をさせていただきました。その後、薩摩中央高校生徒会役員と懇談をすることができました。



牧草の積み込み



牛へのエサやり



梨の収穫と選別



生徒会との交流

【参加者の感想】

- ・小屋の掃除は思った以上に大変で、毎日のように牛のフンをスコップですくっていかなければならないのはキツイと思った。しかし、牛と触れあうことで、その大変さも少し和らいでいくような気がした。
- ・梨狩りを手伝わせてもらってとても貴重な体験をしたと思います。学校にある畑の大きさにとてもびっくりしました。
- ・もっとたくさんの人に農業や畜産業へ興味を持ってもらいたい。今回のような活動に参加するとたくさんの人に知ってもらえると思った。自分の進路選択の時に生きてくるのではないかなと思う。

入来観測所では最先端の科学技術に触れるとともに研究者と直接会話することができました。高校で勉強する意義やビッグプロジェクトを成功させるためには意志力と会話力が必要だという話がありました。薩摩中央高校では農業体験を通して、畜産や果樹栽培など今まで知らなかった経験をすることができました。



校庭前での集合写真

参加した人にとって日常の学校生活では得られないものを知るいい機会となり、ものの見方や考え方も変わったようです。皆さんも自分でチャンスを作って、幅広い教養を身につけていきましょう。